

農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

集落みんなが参加する希望豊かな郷づくり

こつなぎざわしゅうらく
受賞者 **小繋沢集落**
いわてけんわがくんにしわがまち
(岩手県和賀郡西和賀町)

■ 地域の沿革と概要

西和賀町は、平成17年11月1日に湯田町と沢内村が合併して誕生した。奥羽山脈の東側に位置し、一級河川和賀川が町の中央を南北に貫き、大小たくさんの川や沢が流れ込む豊富な水資源に恵まれた地域である。総面積591km²のうち、約8割が山林原野で占められ、農林業と観光業などが中心の山村地域である。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

こつなぎざわ
小繋沢集落は、西和賀町の南部（旧湯田町）の西側に位置し、中山間・多雪地域であるが、集落内を国道107号線、JR北上線、秋田自動車道が横断し、集落の西側には湯田インターチェンジがあり、西和賀町の玄関口となっている。

集落全40戸のうち35戸が農家で、そのほとんどが水稻主体の兼業農家である。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア 中山間地域等直接支払制度を活用した協働活動

集落では、担い手不足と高齢化が進み、集落の水田機能を今後どのように維持していくか話し合った結果、農家が戸々に作業するよりも、農業者全員が協働で作業をすることが効果的であり、必要であると意見がまとまった。平成12年度には、中山間地域等直接支払制度を活用するための集落協定を町内でいち早く締結し、協働による山腹水路の補修、ポンプ施設の維持管理等の作業に取り組んでいる。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	41.5%
専業別農家数 (内訳)	総世帯数 2,272戸
	総農家数 942戸
	専業農家 196戸 1種兼業農家 105戸 2種兼業農家 467戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 59,078ha
	耕地面積 2,200ha
	田 1,690ha
	畑 511ha
	耕地率 3.7%
農家一戸当たり耕地面積	2.3ha

※1 H22西和賀町の数値

※2 四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある

イ 繋つなぎの郷さとづくり委員会の設立

平成19年から20年にかけて、「NPO法人いわて地域づくり支援センター」の協力を得て、集落内の名所を紹介する「お宝マップ」を集落全員の協働で作成した。作業を通じて集落のまとまりを再認識すると共に、今後のむらづくり活動の母体となる組織の設置気運が高まり、楽しく安心して暮らせる集落づくりを目指して、平成20年3月に「繋つなぎの郷さとづくり委員会（以下「委員会」という。）」が設立された。



写真1 お宝マップ

委員会は集落の全戸で構成され、行事や年齢、性別を問わず、集落の全員が参画できることが特徴である。また、委員会はこれまでの農作業の協働活動等に加えて、多雪地帯ならではの「雪あかり※1」や「スノーバスターズ※2」の実施、特産化の進むそばを使ったそば打ち体験の開催などの多様なイベントを企画しているほか、情報誌を発行して集落内外に向けた情報発信を行うなど、活発な集落活動の中核的役割を担っている。



写真2 雪あかり

※1 雪あかり

雪像やミニかまくら、集落の道路や広場の雪壁に穴をあけロウソクを灯して楽しむ、町内の交流を深めるお祭り行事。

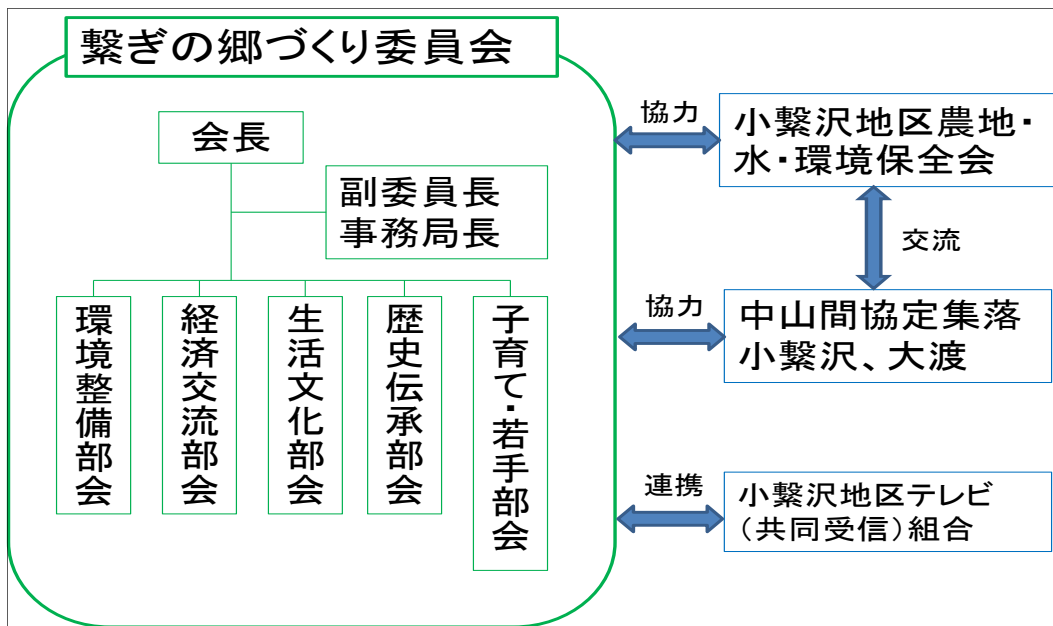
※2 スノーバスターズ

独り暮らしのお年寄り世帯等の雪かきを行うボランティア活動。

(2) むらづくりの推進体制

小繋沢集落では、国の交付金の活用や集落の活動強化のために設立された各団体の活動母体として委員会を機能させ、各団体を協力、連携、交流させて相乗効果を得ながら、集落ぐるみの活動を展開している。委員会の会員は40戸（全120名）で、一戸が一会員となっている。委員会は5つの専門部会で構成され、全ての会員は、いずれかの専門部会に入会する全員参加型の体制となっている。

第2図 むらづくり推進体制図



第2表 部会の取組

部会名	活動内容
環境整備部会	国道沿線除草、花壇づくり等環境美化
経済交流部会	大根栽培、大根品評会、大根一本漬加工販売
生活文化部会	郷土料理等の伝承
歴史伝承部会	秀衡街道沿線環境美化、集落史跡確認
子育て・若手部会	子供たちの地区行事参加誘導

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

(1) みんなの意見を反映させて集落の活性化

小繫沢集落は、中山間・多雪の地域にあり、効率的な農業経営を行うには条件的に厳しい環境であるが、従来から地域のまとまりが良く、中山間地域等直接支払制度等を有効に活用し、水田機能の維持や景観づくりなど、多くの地域づくり活動を集落住民が協力し合って展開している。しかし、住民の高齢化や集落の人口減少は依然として続いていることから、これまで以上に住民の意見を結集し、集落の総合力で活性化を図ろうと「つなぎの郷づくり委員会」を設立した。委員会では、町外の誘致企業や都市で暮らす集落出身者ととともに、集落の特長を活かしたイベント活動の実施や活動情報の発信を行うなど、地域の枠を越えた交流活動を展開している。

(2) 相互交流による集落活動の活性化

県内屈指の企業集積地である北上地域では、企業と農業地域の相互交流により共に発展する地域づくりを目指し、「農楽工楽クラブ^{※3}」が平成20年度に設立された。委員会ではクラブの設立当初から加入して積極的に企業との交流を展開してきた。

同時期に会員となった北上市の電気工事会社（株）アイエムアイとは、平成20年に委員会が主催した、だいこん品評会・販売会を通じて交流が始まり、平成22年からは互いの得意分野により協働で地域づくりをする「一社一村交流^{※4}」に発展し、現在も交流が継続している。

また、「雪あかり」や「スノーバスターズ」など諸々の行事開催に当たっては、多くの企業に参加を呼びかけ、委員会の取組趣旨に賛同する企業等と互いに交流を深めている。NPO法人や誘致企業などの外部組織と集落との交流は、これまでにない刺激と活力を集落に注入することができ、活性化活動のパワーアップにつながっている。

※3 農楽工楽クラブ

事務局である県花巻農林振興センターが連絡・調整を行い、誘致企業と農村集落の交流活動を促進しているもの。

※4 一社一村交流

農楽工楽クラブが位置づける交流タイプで、企業と集落が農山村地域の活性化のために相互に企画し総合的に取り組む交流活動。

2. 農業生産面における特徴

(1) 地域の農業所得向上への取組

集落の話合いで中山間直接支払制度を導入し、地域を挙げて水路の補修等を実施したことにより、水稻を中心とする水田農業生産活動が安定したものとなった。水田機能の維持だけでなく、耕作放棄地が有効に活用され、大根やそば・大豆が作付けされるようになった。特に大根の品評会と即売会は、小繫沢集落^{こつなぎざわ}の恒例行事として平成20年から毎年開催されており、老人クラブに



写真3 大根一本漬け

よって加工された大根の一本漬けは、北上市内のスーパーで販売され、西和賀の伝統食品として高く評価されている。最近ではスーパーや町内の旅館からの発注が増加するなど、冬期間の現金収入につながっている。

また、そばや大豆は西和賀町が推進する6次産業化のための原料として、西和賀町の産業公社に提供され、十割そばや味噌に加工されているほか、委員会では、そば粉の通信販売等を行っている。

（２）集落の担い手確保への取組

集落全戸参加による委員会の設立により、これまで年配者や世帯主が中心となって行ってきた集落づくりに女性や若手が参画して、集落みんなが意見を出し合えるようになったことから、集落活動の幅が広がり、大根一本漬けの継承など、生産や加工現場での後継者の育成にもつながっている。

また、集落で取り組む様々なイベントの情報や元気な集落づくりの活動をアピールするため、委員会の事務局は、平成22年度から情報誌「まめでらが～」（方言で「元気ですか」の意）を「NPO法人いわて地域づくり支援センター」の協力を得ながら発行している。

この情報誌は、集落住民に加えて、町外で暮らす集落出身者にも送付され、イベントの参加募集や地元農産物・加工品の宅配サービス等の情報提供に利用されている。近年、集落行事に参加する首都圏等の在住者は、7名（平成22年）から19名（平成25年）に増えており、Uターン就農へつながることが期待されている。

3. 生活・環境整備面における特徴

（１）集落の景観づくり

委員会は、地域を訪れる方々に美しい景観を提供するため、西和賀町の玄関口となる湯田IC入口付近の花壇に花を植えているほか、集落全戸に花の苗（1,400本）を配布し、集落全体を美化する「花いっぱい運動」に毎年取り組んでいる。

また、委員会は国道107号沿線の除草作業を県から受託し、地域内の水田畦畔^{けいはん}もあわせて住民の協働で除草作業を行っており、集落の周囲も含めた広い範囲で景観づくりに努めている。



写真4 花壇の植栽

（２）地域の歴史伝承活動

奥州平泉文化が繁栄していた頃、平泉に黄金を運搬したといわれる「古道秀衡街道」が集落内に残っていることから、「歴史伝承部会」が中心となって、街道の草刈りや、一社一村交流でつながりのある（株）アイエムアイ（北上市）を招き、秀衡街道の散策を実施するなど、保存活動や地域の文化・歴史の伝承活動に取り組んでいる。